

問 孤立など福祉対策の 取組状況は

答 アウトリーチなど整備に努める



公明党
うえき 植木 議員
しんじ 伸寿

問 ひきこもりは、安心できる場所に退避する状態と言われている。福祉サービスを必要とする方の早期発見、介入が図れていると考えるが、孤立ひきこもりへの支援は。

答 本年度から「重層的支援体制整備事業」として、「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくり」を中心に、支援が必要な方を地域全体で支える事業を開始した。さらに、相談場所の分からない人や複合的課題の窓口として総合相談支援課を開設した。社会福祉協議

会でも、民生委員の力を借り地域で支援が困難な方の調査を実施している。今後は、積極的なアウトリーチを行い地域社会ともつながりながら理解促進に取り組む。

問 当事者には、「あなたは大切な存在である」というメッセージを繰り返し伝えることが重要であり、当事者を支える家族も大切である。取組や考えは。

答 当事者を支える家族への支援も重要である。ワンストップ窓口で寄り添う支援を推進する。



地域を明るく照らす民生委員

問 衛生センターの 汚泥堆肥化は

答 堆肥の安定的な製造に懸念



むらかみ たかし
村上 孝 議員

問 衛生センターで発生する汚泥を活用し、堆肥化すべきでないか。

答 本村は下水道の普及率が9割を超え、し尿や浄化槽汚泥は先々減少が見込まれる。また、堆肥化施設の建設に地元の理解を要するほか、老朽化した衛生センターの大規模改修に加え、新たな堆肥化のための施設整備と、それに伴う業務委託に多額の費用を要するなど課題が多いと認識している。

問 新川を2級河川へ昇格する進展は

答 2級河川への延伸を引き続き要望

問 新川の重要性は、治水管理や周辺市の農業用水利用の観点からも本村の立場は明確。何故、2級河川への昇格が進まないのか。

答 村からの要望を受けて、県において2級河川指定区間の改修を優先に進めている。しかし、用地交渉が難航し事業の進捗が滞っており改修に時間を要すると伺っている。2級河川延伸については、県への要望活動を継続していく。



汚泥から製品化された堆肥
(大宮地方広域衛生センター)